

北海道web創業塾

創業の心構え

講師 小谷行政書士事務所
所長 こたに小谷 あきら聖氏

北海道／公益財団法人北海道中小企業総合支援センター

(1) 創業の動機・目的 I


- 勤め先から指定された仕事(業務命令・辞令)
⇒ 自ら思い描き決定した仕事
- 勤務時間は勤め先の規則に従う
⇒ 原則、自分で勤務時間を設定
- 収入は安定的、失業後も雇用保険が適用
⇒ 収入がゼロの場合もあり、雇用保険はない
- 健康保険・年金、税金の一部負担・手続きは勤め先
⇒ 事務処理も負担も自ら(自社で行う)

(1) 創業の動機・目的 II

- 「なぜ」「どういう目的で」創業しようと思うのか、を明確にする

 他人の意見を聞いてみるのも有効

- 「何を実現したいのか」を明確にする

 少なくとも向こう3～5年の“こうありたい姿”のイメージを持つ

(2) 事業に活かせる資源を持っているか？

- 経営資源

; 一般的 …… ヒト、モノ、カネ、(情報)

; 第3・第4の経営資源

…… ワザ、知恵

- 「知恵」

= 「知的資産」

…… 独特なノウハウ、方法論、行動規範
などを生み出す能力

(3) 創業出来る段階なのか (創業準備は充分か)

(例)ラーメン店

ギャップ

やりたいこと	今できること・今の状況
・行列の出来る店 ⇒経験年数を更に積む、FC加盟を検討する、試食してもらって意見を聞く	・修業年数が足りない ・第三者から味の評価をもらっていない
・道産品食材を活かす ⇒自らの足で卸先を探す	・仕入れ先の調査不足
・街の中心部で開店(300万かかる) ⇒自己資金を貯める、一部借入を行う	・資金が足りない(10万用意できる)

- ・ ギャップを埋める努力をする
- ・ 「今、起業出来る段階か?」冷静に自分自身に問い直す